

## 国内研修報告書

私たちは、長期休暇を利用して2月14日から2月17日(夜行バスでの移動を含めて)まで山形県小国町に国内研修に行きました。小国町に行こうとした理由はまちづくりを学び、これからのゼミ選考に向けて視野を広げたいと思ったからです。小国町は私の出身地です。小国町でいいのだろうかとは最初は不安でしたがとても充実した研修でした。

東京駅から夜光バスを使い約6時間で米沢駅に到着しました。そこから米坂線の始発に乗り小国町へ向かいました。米坂線を利用するのが1年ぶりくらいで懐かしい気持ちになりました。3年間通学した高校時代を少し思い出しました。久しぶりの小国町は東京とは比べ物にならないくらい寒かったです。大寒波で積雪が2メートルも超えた地域があるほどの大雪で一緒に行ったメンバーは驚いていました。18年間小国で生活していた私もとても驚いたほどの大雪でした。

小国町に着いて初めに役場を訪れ、総務課の方からお話を聞き、役場内を案内していただきました。役場の方は私たち学生に大雪の中よく来たねと快く迎えてくださいました。そのあとは小学校や病院、町民センターなど案内していただきました。小学校は新しく建設された校舎で私が中学3年生の時に校舎見学で1度入ったことがありました。校舎は小国町の木造を使っていて、温かみのある雰囲気でした。授業風景の見学をさせていただき、1年生は元気いっぱいかわいらしかったです。6年生は大人びていて、実用的な英語の授業をしていました。小国町は小・中・高一貫教育で、ALTの先生が一人いて実践的な英語を学べる環境です。私が思っていたより国際的で驚きました。病院では小国町で一番大きい小国町立病院に行きました。以前、祖母が入院していたり、高校生の時に熱けいれんを起こし夜間救急で診察したなど、町民には欠かせない医療機関です。医療機関が少ないからこそお年寄りが頼りにしていて、医者や地域の方の繋がりが強くなると思いました。その反面、小国病院は産婦人科や小児科がなく、妊婦さんや子供は町外へ行かないといけないなど課題もあると思いました。町民センターは昔ながらの造りで昭和の雰囲気があります。高齢化が進み急な階段や、バリアフリーがないという点が課題だということがわかりました。誰でも利用できるような施設にしていかなければならないと思いました。

そのあとは福龍軒というお店で地鶏ラーメンをみんなで食べました。有名なラーメンだと聞いたのですが私は食べたことはありませんでした。話をしながらみんなで食べました。

午後は仁科町長からお話をお聞きしました。お忙しい中時間を作ってくださいました。案内していただいた施設の課題や、小国町の良さ、魅力を聞くことができました。課題をどのように解決していくのか、少子高齢化を対策していくのかなど今まで知らなかった小国町を知ることができました。今までとは違った角度から小国町を見ることができたのではないかと思います。とても貴重な時間でした。そのあとは担当の方から小国町のまちづくりの

歴史や現在のまちづくりをお聞きしました。豪雪地帯の小国町は大寒波の影響で除雪機の予算が大幅に上回り何度も予算について会議をしているそうです。少子高齢化でデイサービスセンターは定員オーバーで入所したくてもできないお年寄りが多い反面、保育園は待機児童もいなく空きがある状態だそうです。私が保育園に通っていたころよりも園児の人数が少なくなっていて驚きました。若者は町外へ出てしまっていますが、IターンやUターンで小国町に移住している人たちがいると聞きうれしくなりました。住民が住みやすく、親しみやすいまちをつくるには役場職員や学生、住民、企業の協力が必要だと感じました。小国町の魅力をもっと発信できたらいいなと思います。

1日目の日程が終わり宿へ移動しました。小国町の中でも積雪量が多い地域の旅館、りふれに宿泊しました。小学生のころに育成会でりふれにある木工館などを利用したことはありましたが宿泊するのは初めてでした。クマのはく製など小国町で有名なものがたくさんありました。出していただいた料理はわらびやごごみ、アケビなど小国町の山菜をふんだんに使っていて“おばあちゃんちのごはん”を思い出しました。

2日目は、大宮神社をまわり、お昼は早稲田大学の学生の方々と一緒に郷土料理を作り一緒に食べました。早稲田大学の方々は、いぐべおぐにという小国町のまちづくりを学ぶサークルの方たちでした。都会の学生がこうやって小国町に興味をもって訪れてくれるというのはとてもありがたくうれしいことだと思いました。普段、ほかの大学生と関わる機会がないので早稲田大学の方々と交流ができて貴重な体験になりました。サークルについてや、なぜ小国町に興味をもってくれたのかを聞くことができ良かったです。

そのあとは、緑のふるさと協力隊の方のところへ訪問をし、お話をお聞きしました。北部地区にあるもう閉園してしまったあさひ保育園を地域の憩いの場として活用していました。地域の人がつながるととてもいい場所だと感じました。地域のおばあちゃん方から大学生が来るということで手作りの大福やゼンマイの煮つけなどをいただきました。地域の憩いの場としてあさひ保育園を活用してから、輪投げ大会や、卓球、将棋、お茶会などお年寄りの方がくつろげる空間になっていました。お話をお聞きした後、卓球を使わせていただきました。みんなで卓球の試合をしていると地域の方がいらっしゃいました。小国町出身の加藤ですと自己紹介すると、〇〇のこの加藤さんね〜と少し有名人の気持ちになりました。地域の繋がりがって本当にすごいなと改めて実感しました。

小国町研修を通し18年過ごしてきた町の知らなかった魅力や町の課題などを知り、まちづくりを学ぶことができました。田舎だからこそ、小国だからこそ感じられる地域の繋がりが、都会では味わえない山の恵みや自然を発信して多くの人に小国町を知ってもらいたいと感じました。大学卒業後は小国町へ帰りまちづくりに貢献したいと強く思える良いきっかけになりました。自分の視野が広がり、改めて自分を考えられた研修でした。充実した研修になりました。これからは2年生になり専門ゼミに入りより専門的に学んでいくので、対応力や責任感を積んでいきたいです。思ったことを表現することが苦手なので力を身に付けて行動力のある人になりたいです。長いようで短い残りの3年間を充実したものにするた

めに研修で学んだことを自分の力にしたいです。楽しい研修にしてくれたゼミのメンバーにはとても感謝しています。1年しか一緒ではないのですが絆は深まったと思います。また、ご指導してくださった佐野先生、小国町についてお話をしてくださった仁科町長、役場職員の方々、緑のふるさと協力隊の方、小国町民の方々とても貴重な体験で思い出に残る研修となりました、ありがとうございました。